

郡報

第參拾九號

二月廿九日

目次

- 一、利根郡旌表規程ニ依ル表彰者
- 一、利根郡農商工景况報告
- 一、米産額表
- 一、縣稅徵収狀況調
- 一、通俗教育揭示資料 (六月分 七月分 八月)
- 附 錄
- 一、馬匹去勢法施行規則 (續キ)

頁行	誤	正
一三	賞狀賞品	賞狀及賞品
二四	迄ル迄	至ル迄
二二	縣農會	郡農會
三二	東茨城	東茨城郡
四八	他地方	其儘他地方
七二	手工藝品展覽會	手工藝品副業品展覽會
八三	將來重要	將來重要
三三	將來重要	將來重要
六三	色素	黒い色素
三六	任めよ	休めよ
二五	附 錄	之ヲ記載

郡 報 第參拾九號

◎利根郡旌表規程に依る表彰者

利根郡町村、町村吏員其他旌表規程及普通教育獎勵規程ニ依リ表彰セラレタルモノ左ノ如シ而シテ之カ賞狀賞品ノ授與式ハ四月三日舉行セラレタリ

賞 狀

各 通

桃 野 村
川 鳩 村

協同一致克ク納稅並ニ教育ノ事ニ意ヲ效シ其成績良好ナリ今後尙一層奮勵戮力益其實績ヲ舉クヘシ茲ニ金拾五圓ヲ授與シ之レヲ表彰ス

大正六年三月卅一日

群馬縣利根郡長 正八位 野 中 富 三 郎

賞 狀

新治村収入役 勳七等 清水 竹次郎

明治四十一年十月新治村書記ニ擧ケラレ大正二年八月同村収入役トナリ爾來勤績シテ今日ニ至ル
在職十ヶ年常ニ精勵克ク事務ヲ整理シ其效績顯著ナリ仍テ金拾圓ヲ授與シ茲ニ之ヲ表彰ス

大正六年三月三十一日

群馬縣利根郡長 正八位 野 中 富 三 郎

賞 狀

利根郡水上村

鈴木 貞 司

資性温厚朴直夙ニ公共ノ念深ク明治三十四年五月村會議員ニ擧ケラレ爾來助役學務委員區長等ノ
公職ニ歷任シテ村政ニ貢獻スルコト拾有餘年又明治三十九年四月村内出身ノ戰病死者秀才者及高
齡者ノ靈ヲ祭ル爲メ自費ヲ投シテ石祠ヲ建立シ明治四十二年九月卒先シテ小仁田報徳社ヲ組織シ
推サレテ社長トナリ實踐躬行衆ヲ率ヒ大正二年一月ヨリハ社員ノ早起キヲ獎勵センカ爲メ毎週一
回未明ニ鈴ヲ鳴ラシテ部内ヲ巡回シ以テ社員勤勞ノ美風ヲ鼓吹スル等今日ニ迄ル迄終始一貫淪ル

コトナク其效績顯著ニシテ地方改良ノ上ニ盡スコト尠カラズ仍テ金拾圓ヲ授與シ茲ニ之ヲ表彰ス

大正六年三月三十一日

群馬縣利根郡長 正八位 野 中 富 三 郎

表 彰 狀

各 通

- 川 嶋 尋常高等小學校
- 池 田 尋常高等小學校
- 薄 根 尋常高等小學校
- 利 根 川 尋常高等小學校
- 旭 尋常小學校
- 子 持 尋常高等小學校
- 入 須 川 尋常小學校
- 川 田 尋常高等小學校
- 久 呂 保 尋常高等小學校
- 赤 城 根 西 尋常小學校
- 赤 城 根 中 部 尋常小學校

大正四年度就學並出席歩台優良ナルヲ以テ郡普通教育獎勵規程第一條第一項ニ依リ賞狀ヲ授與シ

茲ニ之レヲ表彰ス

大正六年三月三十一日

群馬縣利根郡長 正八位 野中富三郎

表彰狀

各通

水上尋常高等小學校訓導兼校長 梶原三三
 薄根尋常高等小學校訓導 新井貞三
 桃野尋常高等小學校訓導 小林文作
 東村尋常高等小學校 代用教員 中澤忠三郎

職務ニ勉勵シ教授訓育其宜シキヲ得成績佳良ナリ仍テ郡普通教育獎勵規程第三條第二項ニ依リ金五圓ヲ授與シテ茲ニ之レヲ表彰ス

大正六年三月三十一日

群馬縣利根郡長 正八位 野中富三郎

表彰狀

各通

水上尋常高等小學校訓導兼校長 梶原三三
 全 校尋常科訓導 鈴木辨吉
 生井尋常小學校訓導兼校長 青山關松

明治四十四年度ヨリ大正四年度ニ至ル五箇年間引續キ皆勤職務ニ精勵セルヲ以テ郡普通教育獎勵規程第三條第四項ニ依リ金四圓ヲ授與シ茲ニ之レヲ表彰ス

大正六年三月三十一日

群馬縣利根郡長 正八位 野中富三郎

表彰狀

東村尋常高等小學校訓導兼校長 小尾常菊

多年小學校ノ教育ニ從事シ誠實熱心其職ニ盡瘁シ効績顯著ナリ仍テ郡普通教育獎勵規程第三條第五項ニ依リ金拾圓ヲ授與シ茲ニ之レヲ表彰ス

大正六年三月三十一日

群馬縣利根郡長 正八位 野中富三郎

◎利根郡農商工景況報告

利根郡長ヨリ群馬縣知事ニ報告シタル大正五年利根郡農商工景況報告左ノ如シ

○大正五年利根郡農工商景況報告

農業

農業は本郡民の主業なるを以て其の戸數九千五百五十戸を有し總戸數の約八割二分を占め内自作農三千五百五十七戸自作兼小作農家は三千三百九十一戸にして純然たる小作農家は年々幾分増加の傾向を示し現在二千二百五戸を算す今本郡の耕地面積に付て見るに田畑桑園を合し八千四百貳拾壹町九反歩を有し之を一農家に配當するときは平均田貳反壹畝拾貳步畑六反七畝步桑園五反四畝步計壹町四反貳畝貳步に當り一戸當り面積の廣大なる縣下の優位に在り又養蠶飼育戸數は六千八百七拾貳戸にして農家惣戸數の約八割を占め養蠶收入年額百拾餘萬圓に達し農家年收入の過半を占む以上の現状に依り普通農事と養蠶とは郡産業の最主要なるものにして其の豊凶盛衰は郡經濟の根本を左右するものと云ふも敢て過言にあらざるなり故に郡當局に於ては極力之を改善發達を期する爲數年來郡立農事講習所を設け農村の中堅たる農家の子弟を收容して専ら實際的農の教養に力をを用い傍ら一般人民に對し農業經營の好模範を示し郡技術員並に農會技術員相協力して克く農閑期を利用して各町村を巡廻して農蠶業に關

する各種の講習會を開催し農民智識の啓發に努む尙來るへき大正六年度に於ては郡立農事講習所卒業生全部を郡農會に於て農事指導員に嘱託し郡技術員指導の下に郡及郡農會に於て施設獎勵せる事項の普及徹底を圖らうむるは勿論各自率先して萬般の改良事項を實行し一般當業者に對し直觀的に克く之を指導し誘掖して以て農事の改良に資し一は以て卒業生自身の完成を期せしめむとす

本年郡又は郡農會に於て獎勵施設したる事項の主なるものを擧ぐれば町村又は町村農會をして農作物立毛品評會を開催せしめ郡技術員をして一々選種耕耘栽培上の巧拙より施肥して適否に至る迄嚴密に審査品評を遂げ之によつて以て當業者に改良の要点を示し麥作稻作及蔬菜の實地指導地を設け稻作二十二箇所麥作十九箇所蔬菜其他麥箇所計四拾四箇所を設けて之に關する各般の改良事項を直觀的に指導するところあり水稻採種田は東村を除く外各町村を通して貳町貳反貳畝拾七步を設置せしめ前年郡農會水稻原種田に於て採種したる原種を無償配布し品種の改良統一を計り或は種子澆水撰並に麥種子冷水温湯浸法の實行を爲す尙肥料に對しては堆肥及綠肥等自給肥料の生産を獎勵し郡農會は大正四年堆肥舎建設獎勵規程を改正し坪當り獎勵金の單價を増額し本年又麥拾壹棟貳百貳拾四坪の新設を爲さしめ且つ利南村外七ヶ町村に於て堆肥品評會を開催し郡より褒狀及壹貳等賞品を授與し之が改善獎勵に努む綠肥に就ては郡農會に於て供給地より沼田町に至る荷造運搬等購入に要する惣ての費用を負担し紫雲英種子三十三石二斗九升價額壹千百拾四圓を共同購入し當業者の利便を圖る又二硫化炭素に

對しても紫雲英種子同様の方法に依り共同購入を行ひ貳拾餘種の倉庫燻蒸を實行せしめたり其他青年會を支會報徳社同窓會養蚕組合等主催に係る農産物商品評會等に對し審査指導を爲したるもの拾余を數ふ就中實地指導地の効果最大なりしを認む願ふに廣く全般に亘りて漠然獎勵を試むるより部分的なりども徹底的に克く指導獎勵を加へて漸次全般に及ぼすことか或は普及緩慢なるが如くして寧ろ効果の迅速なるを認めたるに依り大正六年に於ては主として一部落以下を區域とし區域内に於ける志操堅實なる同志のみを以て農事改良の實行組合を組織せしめ惣會に於て協議決定せる事項は各組合員をして必ず之か實行を期せしむることに努め漸を追つて改良の實を擧げしめんとす

蠶業

養蠶に在りては近時當業者一般に粗放的飼育の不利にして危險を伴ふこと多きを悟り努めて自家の勞力と桑園面積の多寡に鑑み之に適應せる飼育を行ふの傾向を生じたるに春蚕を減少し夏秋蠶の飼育が多からしめ以て勞力の分配に留意するに至りたりと雖も尙桑園の荒廢に依り收葉の少きと雇人賃銀の比較的高率なりとに依り養蠶收入の大部を之に支出するの憾なき能はず爰に於て郡は昨年より雇備周旋業組合と協商して他郡市の實狀及事業の難易とに因り斟酌して利根郡標準賃銀及作業功程表を定め不良周旋業者を牽制し養蠶家をして收支の均衡を得しめんことに努めたり又全年より郡農會の獎勵施設として各町村に青年會又は其他の團體として年々一ヶ所壹反歩以上の模範桑園を設置せしめ植付

後三ヶ年間に亘り一箇所金貳拾五圓の獎勵金を交付し郡農會技術員指導の下に専ら經營團休員の共同作業に依り肥培耕耘任立方法等凡て模範經營に依り一般當業者に範を示し一面桑葉需給の調節に資せんが爲す既に前年度拾參箇所壹町四反歩本年又拾參箇所壹町四反五畝歩の新設を見成績見るべきもの極めて多し本年の春蠶は催青時期に於て氣候温暖なりし爲前年に比し二三日方掃立を早めたれ共掃立後の天候概して雨勝にして低温多濕爲めに經過概して緩慢なりしか上族期の天候恢復概ね適順なりしを以て掃立枚數前年に比し約壹千枚を減したるに拘はらず收繭三千二百五十餘石の増收を見るの好結果を得たり而して價格に於ては糸價順潮の爲上繭壹石平均約四十六七圓の高値を示し總額八拾貳万八千餘圓に達し前年に比し三十四万五千餘圓の増加を見るに至れり如斯狀况なるを以て養蠶家の氣配頗る活氣に富み夏蚕秋蠶共に掃立枚數前年に比し著しき増加を見兩者を合して壹万七千六百六十枚に達し收繭八千七百四十石價格三十八万壹千七百七拾圓に達したり是本郡としては近年來未曾有の生産にして當業者の意氣大に昂るを見たり然れとも尙春蠶壹枚當收繭高六斗九升九合夏蠶五斗八升六合秋蚕に至りては四斗八升五合にして之を他郡市に比すれば尙多く遜色あるを免かれざるに依り將來經營方法並に飼育方法等に關し十分考慮改善を要するものあるや明なり故を以て本年三月中二日に亘り東京高等蠶糸學校土屋教授を聘し學理實際兩方面より本郡適切なる養蠶講演會を開催し當業者の注意を促かし且養蠶組合の設置活動を奨励し斯道の經驗家を指導員に招聘せしめ養蠶技術の改善を期せしめ

むことを期す本年縣郡の獎勵規程に基き設置せる組合は合計四組合にして内縣より獎勵金を受けたるもの片品、水上の二組合あり由來本郡の當業者には粗放的飼養を爲すの弊習を存し徒らに播立枚數を多くし稚藪共同飼育を困難とする事由等ありて組合設置上支障なき能はざりしと雖大正六年度に於ては郡獎勵金の増額決議と主として縣獎勵規程の改正に依り己に數個の増設を見るべき見込確實なり且の全年度に於ては農閑の季節を利用し郡内五箇所に短期の女子蠶業講習會を開催し蚕飼育上に於ける實際的知識の普及向上を圖らむとする計畫なり

林業

本郡は林野面積廣大にして民有林のみにも約三万五千町歩を有し年々七八十町歩の植林を爲しつゝありと雖も未だ確然たる施業計畫を樹て、經營を爲すもの極めて少なく多くは目前の小利に惑ひて濫に伐採を行ひ後地の植栽に十分の意を用ゐざるの弊風あり郡は大正二年白澤村地内國有林約百町歩を拂下げ模範林を設定して林業經營の方法及苗木養成の範を示さむことを期し且つ機に應じ郡林業技術員を町村に派出し親しく當業者に接し或は文書を以て縣郡の獎勵施設事項の徹底に努めしめ公有林の植栽私有林の植栽天然造林手入刈拂並に苗圃事業竹林栽培等各種の方面に對し指導獎勵を加へ爲に年々幾分の進展を認むるに至れり然りと雖も數年來赤枯病のため最需要多き杉苗木の完全なるものを得ること不可能の状態に在り當業者の不利不便は素より郡有模範林の植栽苗木にすら支障を招き爲

に其の計畫變更希望の聲をきく一因を爲すか如き状態なるを以て郡は民有苗圃の獎勵と相俟つて郡農會の一獎勵事項として大正四年以來の施設を繼續し利南東、白澤、東、片品、水上、須川の六小學校に杉苗圃の實地指導地を設け縣農會技手及受持教師指導監督の下に將來の農民たるべき兒童に對し苗木養成上の技能を會得せしめ漸次郡内所要の苗木を養成せしめ自産自給の計を講し大正六年度に至りて第一回山行苗を見る豫定なり

次に本郡林産物の首班を占むる木炭は其産額約二百萬貫にして時價昇騰の爲其の價額十五萬餘圓に達し尙年々國有林木の拂下あるを以て産額減退の傾向を認めず然れども其の品質に付ては多野吾妻産のものに比し未だ遜色を免かれざるもの多く且つ其包装に至りては初級入西入東入根利山等各其の形式を異にし従つて斤量區々に流れ統一を缺くを以て將來同業組合法に據り本郡木炭同業組合の設立を促かし之等舊弊の改善統一を企畫せむことを期すと雖も未だ當業者の氣運並に四圍の事情は尙尙早の嫌あるに依り之が設立を爲すも事業執行上蹉跌を來すこと保し難く寧ろ先以て産額多量なる町村を善導し漸次漸次準則による組合を設けて當業者に對し該組合經營上の經驗を積ましめ之等小組台の結合を基とし全郡を區域とせる健全なる同業組合設立の機運を作らむことを期し本年九、十月に亘り郡内赤城根村及水上村の二箇所に製炭講習會を開催し以て當業者三十余名に對し檜崎式製炭法を傳習し品質の改良生産増加の技能を得しめ其の成績良好にして水上村の如きは既に村内二大字に於て村設の講

習習を開催し且つ全村及桃野村の一部を區域とせる木炭組合(準則によるもの)の設立總會を了し認可手續中に属するの實狀なり尙郡は大正六年度に於ても該講習會を開設して之か普及を計らむとする計画なり

畜産其他

畜産事業に就ては利根郡産牛馬畜産組合に對し年額千四百圓の補助金を交付し直接斯業の改善獎勵に當らしむるを以て組合に於ては年々沼田、新治の二ヶ所に種付所を設け國有及縣有種牡馬合せて五頭の派遣又は貸下を受け内専ら栗生峠以東の種付に便する爲東村に國有貸下種馬一頭を派遣して専心良駒の蕃殖を圖り囑託獸醫一名を置き當時畜牛馬匹の保健に留意せしめ飼養管理に關し畜主に適切な注意指導を加へつゝあるを以て遂年改良進歩の實績を現はし本年十月沼田町に開設せる糶市場に出場したる産駒は惣數百九十七頭に於て前年に比し拾壹頭を増し之を前々年に比するときは實に五十七頭の激增を示す而して特に優良なる産駒に對しては組合より賞品を授與して之か獎勵に努むるを以て數年前に比較し大にその面目を新にし牝馬の如き殊に其の然るを見る

畜牛は本郡農家の實狀に於ては之か特別な利用の方法を講ずるにあらざれば一般の需要に適應せざると産價額の低廉にして收支償はさると乳牛として飼養するには一定限度以上を要せざる等の事由なるひか郡内馬匹四千九百六十二に對し僅に三百十一頭を有するにすぎず而も本年の出場産價に至

りては僅かに八頭を算するに止まり年々減少の事實を示せるは甚遺憾とするところなり然れ共専ら耕牛に適せる彼の茨城縣東茨城地方に飼養せらるゝ小値賀牛の如きは本郡農家の使用に適せる種類なりと認めらるゝを以て郡立農事講習所に於て本年度この牝牛一頭を購へし其の成績を徵せむとし既に購し且下飼育中に属す若し果して豫期せる如くなりとせば將來相當の普及を見むこと疑なかるべしと信す

豚は近年幾分増加の傾向を有することも尙未だ郡内を通じて二百餘頭を數ふるに過ぎずされど馬匹を飼養すること能はざる小農家に對しては將來一層戸當り一二頭を飼養する程度迄獎勵普及の餘地あるべしと信するに依り相當獎勵を加へんとす山羊に在りては殆ど好事家の賞翫用として僅かに六十五頭を飼養するに止まり實用に供する程度に至らむこと覺束なきものゝ如し

養鶏は本年の飼養戸數二千五百四十九戸壹万六百五羽にして一戸當り四羽一分六厘に當り之を農家總戸數一戸に對比すれば僅かに一羽一分五厘に相當す如斯不振の現狀に在るを以て大正二年郡農會は新に獎勵規程を設けて副業の目的による養雞を行ふものに對しては一戸五羽以内を限り雞を無償交付し又利根家禽協會品評會に對し相當獎勵金品を交付し斯業の普及及獎勵に對する一策と爲すと雖も由來本郡には比較的狐犬の害多きと又蔬菜其他の作物を害することを厭ふの念深きとに依り微々として振はざるの憾あり前年に比し飼養戸數九十四羽數貳百九拾を増したるのみ之を以て尙將來普及の餘

地多く指導獎勵の效果著しき者あるを覺ふ

工業

本郡は從來企業家少なく且つ交通機關の未だ備はらざるに因り工業施設に於て見るべきものなく只僅かに利根發電會社の電氣事業及小規模ながら個人又は組合の經營に係る器械製系あるにすぎず前者は白澤村岩室に於ける第二工事の完成に依り益々事業の廣大を致し尙増工事進行中に在り後者は個人經營に屬する原澤製糸所高壽製糸所及南三社に屬する下仁田社戸鹿野組細谷組新盛組及碓氷社三國組利根組等を主とし器械製系戸數參拾四線絲釜數壹千六拾六生糸産額約壹萬貫を出し専ら輸出向として販賣しつゝありと雖も尙郡内生繭の三分の二を他地方に移出するの狀態に在り十分發展の餘地あるを認むと雖も専ら大企業家の手に須つに非されは容易に行はれ難き事情あるを以て産業組合法による組織に依り適當に之か生産増加の方途を進めむとす其他川場村大字生品に於ける玉蜀黍等の製産は本郡副業的手工品中特色あるものにして本年の産額貳萬五千本其價額三千七百五十圓に達し郡外の需要を充たすもの尠からず

尙川田村の酢酸苦土は洗粉の原料として亦年額二三千圓を出しつゝありしか産額十四萬貫價格八千圓に増加し主として東京市へ移出す石材は川場川田兩村より多少の産出あれども未だ云ふに足らず

次に新治村に於ける醋酸會社の工事完成するに至らば醋酸石灰の生産極めて多かるべし然れども未

た工事の完成を告ぐるに至らず之を要するに本郡の工業は未だ以て見るに足らざるものなく其の發展は將來の施設に俟つの外あらざるなり

商業

本郡は地勢の關係上交通の便未だ開けず従つて商家と雖も多くは半農半商にして専業商家は殆ど僅かに沼田町に於て見ることを得るに止まり市況は牛繭及穀菽出廻期に於て一時殷賑を見るに過ぎざれ共沼田町は本郡商業の中心にして郡内外より各地に移動する物資の大部分は必ず此地を通して集散するに依り田舎町に似合はす比較的繁華の狀あり其の取引物品の主なるものは生繭米麥大豆及肥料薪炭木材其他の産業用品並に日用雜貨とす本年は時局の爲反つて我産業界に好影響を及ぼし糸價の昂上米價の順潮大豆薪炭等近年異數の高價を示し當業者の収入は前年に比し著しく増加し金融緩漫に流れ銀行に餘裕金を見るの恰現象を一時現出するの狀態なりき従つて農民の購買力が増し日用雜貨の移動概して多かりしか如し

其の他副業等

産業上の遺利を拾收する上に於て本郡の如きは最も開拓すべき餘地を存す郡は曩に屑物整理講習會を開設し玉糸線糸及眞綿の改良生産を唱導し續いて染色講習會を開設し以て農閑期に於ける女子の副業を奨励し回を重ねること織物三回染色一回本年又染色織物各一區宛を沼田町に翻産し前後通して三百

八十四名の修了生を出したり郡は將來之等修了生に依つて自家用染糸廢物利用は素より衣服の料は自ら之を辨せしめ進んで本郡の一物産として牛絹の販出を見る程度迄に進歩發達を期せしめむことを期す、つゝあり更に大正六年度に於ては織物講習會は之を東西の二ヶ所に開設し更に普及を計らむとし既に郡會の議決を了したり

椎茸は森林副産物として本郡の如き原料木に富む所に在りては前途有望の事業にして獎勵を加ふるの要ありと認む從來は只天然生のもののみを採種するに止まりたれども過ぐる大正二年縣立農事試験場に於て新治、池田の両村に人工栽培試作場を設け實地指導に依りて縣嘱託教師の巡回講話等ありて以來之か人工栽培の途あるを知り小規模なから之か企畫を爲すもの五六ヶ町村に互り十七八名を生じ試験的栽培を行ひつゝあり然れども未だ極めて初歩に屬し之か爲めに生産増加を見るの域には達せられざるなり本年の産額は乾燥量六百八十六斤價格四百圓にすぎず郡は將來之か栽培を勸奨し遂には郡外移出の域に達せしめむことを期す

果樹類中本郡の地味氣候に最も適應せるは柿にして空地利用の策としても亦獎勵を加ふるの必要あり數年來品種の改良良種の接本又は改植を奨励し且つ先年柿露柿製造の講習會を開設して之か傳習を受けしめ之に依りて薄根白澤川田其他に多少の製造を見るに至りたり然れども未だ一般は舊來の申柿を以て甘んずるもの多く其の産額は兩者を合して二万五千二百二十五貫價格金四千五百三十有餘圓を出

し前年に比すれば稍不作なりし爲四千三百廿余貫の減少を見たり尙生柿のまゝ市場に取引せらるゝ額決して少からざるを見る

山葵は未だ其の生産を數ふる程度のものに非すと雖も水上村谷川、赤城根村砂川の如き現に天然生山葵の繁殖せる適地少からざるを以て良種を移して以て合理的栽培を爲すに於ては之亦有望の副業なるへしと信したるに依り本年十月靜岡縣安原郡産の山葵苗貳千本を購入し縣嘱託教師指導の下に前記の適地に試作田約四坪を設け且つ希望當業者に對し苗の無償配付を行ひ水上、赤城根を始め東、片品新治古馬牧等に試種せしめたり大正六年度郡は更に之を繼續して獎勵指導せむことを期しつゝあり

其他薬細工芝細工(岩ンバ)漆竹細工等其の製産未だ多からずと雖年々増加の傾向を示しつゝあり郡に於ては之等手工的副産品に對しては前年に引續き郡立農事講習所を會場とし郡聯合青年會主催の下に品評會を開催せしめ改善指導の途を講し尙來るへき大正六年度に於ては一般副産品をも加へ其の規模を擴張し全しく郡聯合青年會主催の下に手工藝品展覽會を開設し益々之か獎勵を圖らむとす

○將來の意見

本郡は其の位置及交通の關係上未だ農事諸般の現況及施設等他都市に比し一般の遜色を免かれずと雖も亦將來開發すへき多くの餘地を存するを以て郡當局に於ては事の緩急に應じ直接郡技術員及農會技術員をして各種農業團體は勿論一般當業者に對し適切なる指導を加へ養蠶組合、米麥採種組合農事

改良實行組合等の農畜業に關する共同的施設を獎勵普及せしめ同業組合産業組合中央會郡部會郡農會
産牛馬畜産組合酒造組合各種産業團體にして郡産業の發展上適當なる事業を營むものに對しては夫
々補助を與へて之か活動を助成し其の及ばざるところ或は部落講話に品評會に或は短期の講習會に又
は實地指導地に付極力指導獎勵を怠らざると共に新治・薄根・桃野・利南等の例に倣ひ町村農家の經
濟状態を精査し漸次各村に村是の確立實行を促かり地方適切なる産業組合の設立を勸奨し産業資金の
中央集中を防ぎ地方金融の圓滑に資し漸を遂ふて郡産業の改善發展を期せむとす終に臨み本郡主要物
産たる大豆の改良に關し希望を述べ由來本郡の大豆は其の實質及風味の點に於て獨特なる長所を
有し古來沼田大豆と稱し東京市場に於て頗る好評を博しつゝありと雖近時俵裝調製統一せる北海産大
豆の多量に販出せらるゝに當り俵裝内容不統一にして乾燥調製共に粗雑なる吾か沼田大豆は取引と多
大の不利を招き市場の聲價を失墜しつゝあるの狀態なり之を當業者に議るも出廻時期に於ける買入商
人の競争激甚なるか爲殆ど其の優劣を見別するの暇なく品の上下俵裝の如何によりて價格に大なる差
異を來すことなき實狀なるを以て俵裝を鄭重にし調製を人念にするも結局生産者の利得に影響なく爲
に不本意ながら改善實行を見ること能はざるなりと云ふ然りと雖如斯にして放任せんには將來重要物
産たる大豆は勢ひ其の聲價を失墜し他地方産大豆の爲に市場より驅逐せらるゝの悲運に會することな
きを保し難し之れ最も憂ふべきことなるを以て此際多少當業者の苦痛はさけ得られずとするも本縣令

俵裝取締規則の改正を行ひ大豆の俵裝及内容の劃一を強制せられむことを望むて止まざるなり而して
之を斯とし町村農會を指導誘掖して同時に調製乾燥の改善を圖るべく適當なる方法を講せしめむには
沼田大豆の聲價を永遠に失墜せしむることなく反つて生産増加を促かすことを得へし本件に關しては
郡會に於て意見書等の提出あり尙考慮中に屬す 以上の外は農・畜・工・商各項に於て概説したるを
以て茲に之を省略したり

◎大正五年利根郡米產額表

大正五年

町村名	作付		收穫高	一反當 收穫高	價額	一石當		全上現住戶數	全上價額
	反別	石				價額	收穫高		
沼田町	九七、二	反	二、〇〇二	二、〇六〇	三、四四一	五、七〇〇	八九	一、〇八〇	七
利南村	八九、五		一、六九三	一、八九〇	二六、一四〇	一五、四四	五一	二、八二二	四
白澤村	九五、六		一、八八三	一、九六九	三三、八八	一七、九五	七九	三、四九五	六
東村	二七、四		五〇九	一、八五〇	八、一九一	一六、〇九	四六	七八三	二
片品村	三六、三		五三九	一、四七三	八、三二八	一五、五三	二七	七五三	一
川場村	二〇、一		三、九四五	一、八〇〇	六、一七九	一五、八五	一〇六	六、二七一	九
池田村	二四、二		四、三三〇	一、七七三	七、四六六	一七、二四	一四	七、一八〇	一
薄根村	二七、九		三、六五八	一、六八一	六三、三九六	一七、三三	一一	五、七六九	九
古馬牧村	一六、七		三、〇三二	一、六三三	五、四三三	一八、〇二	九七	五、〇三四	九
水上村	一一、〇		一、七四九	一、五六一	二八、五九五	一六、〇四	五	二、四四五	四

桃野村	二〇四、三	三、二二七	一、五八〇	五二、六五九	一六、一九	五、五七一	九二	四、七五三	七
新治村	二五八、〇	四、一六八	一、六一五	六二、九〇三	一五、〇九	三、九五四	五九	三、六〇〇	五
川田村	九五、四	一、九九八	二、〇九四	二八、一〇七	一四、〇七	五、三八五	七五	二、八六二	〇
久呂保村	三八、三	七〇六	一、八四三	九、九五九	一四、一〇	三、一九四	四五	一、四九五	二
糸之瀨村	三二、四	五三〇	一、六八八	九、三二八	一七、五八	四、六〇八	八一	一、三四一	三
赤城根村	七、〇	二二七	一、八〇〇	一、九二七	一五、〇〇	三、六二八	五五	三、〇二二	五
計	一、九七〇、九	三、四、一〇一	一、七四七	五、五五、〇〇三	一六、二二七	五、〇六三	八二	三、〇〇〇	四九

◎縣稅徵收狀況調

大正六年一月ヨリ三月ニ至ル利根郡縣稅徵收成績ハ左表ノ通りニシテ一月徵收期ニ屬スル所得稅附加稅第二期ハ非常ノ好成绩ニテ皆納トナリタルモ二月徵收期ニ屬スル地租割第三期及全追加ハ東村片品村ニケ村ノ成績甚タ不良ナリシ爲メ郡ヲ通シタル成績亦不良トナリ三月徵收期ニ屬スル戸數割追加ハ各村其成績比較的良好ナリシモ獨リ沼田町ノ成績不良ナリシ爲メ是亦郡ノ成績良好ナルヲ得ス甚タ遺憾ナリ前期成績不良ノ町村ハ今後當局者及納稅者共ニ特ニ一層ノ注意ヲ望ム

○大正五年度縣稅所得稅附加稅第二期徵收狀況調

大正六年一月徵收期

町村	調定額	納期限後三日迄ノ 収入額	調定額ニ對スル 収入歩合	収入未済額
沼田町	八四、三三三	八四、三三三	一、〇〇〇	〇
利南村	二七、七三三	二七、七三三	一、〇〇〇	〇
白澤村	一〇、六九九	一〇、六九九	一、〇〇〇	〇
東村	一四、七二二	一四、七二二	一、〇〇〇	〇

町村	調定額	納期限後三日迄ノ 収入額	調定額ニ對スル 収入歩合	収入未済額
片品村	一一、五二二	一一、五二二	一、〇〇〇	〇
川場村	二四、九九七	二四、九九七	一、〇〇〇	〇
池田村	八、三〇〇	八、三〇〇	一、〇〇〇	〇
薄根村	一八、三〇〇	一八、三〇〇	一、〇〇〇	〇
古馬牧村	一四、二二二	一四、二二二	一、〇〇〇	〇
水上村	二、三六六	二、三六六	一、〇〇〇	〇
桃野村	一八、八五五	一八、八五五	一、〇〇〇	〇
新治村	二二、八三三	二二、八三三	一、〇〇〇	〇
川田村	二八、〇三三	二八、〇三三	一、〇〇〇	〇
久呂保村	一〇、三六六	一〇、三六六	一、〇〇〇	〇
糸之瀨村	一六、九九七	一六、九九七	一、〇〇〇	〇
赤城根村	一〇、四〇〇	一〇、四〇〇	一、〇〇〇	〇
合計	三三五、五八八	三三五、五八八	一、〇〇〇	〇

◎大正五年度縣稅地租割追第三期徵收狀況調 (右第三期) (左追加) 大正六年二月徵收期

町村	調定額	納期限後三日迄 收入額	調定額ニ對スル 收入歩合	收入未済額
沼田町	六一五、八五	五八九、九二	九五七	二五、九三
利南村	五四七、四二	五二二、五二	九五六	二四、九〇
白澤村	五四四、六一	五四四、六一	一〇〇〇	〇
東村	四八二、〇二	四八二、〇二	一〇〇〇	〇
片品村	五二〇、七九	五〇〇、一七	九五七	二〇、六一
川蕨村	四四九、一六	四四二、七五	九五六	六、四一
池田村	三三二、九二	三三二、九二	一〇〇〇	〇
東村	三三二、九二	一八〇、〇〇	五〇九	一七三、九一
川蕨村	四四九、一六	二七三、八三	六〇〇	一八二、三三
池田村	四〇四、五九	二四二、六四	五九九	一六一、九五
川蕨村	六七六、六七	六七六、六七	一〇〇〇	〇
池田村	五九八、四一	五九八、四一	一〇〇〇	〇
池田村	六四三、七〇	六四三、七〇	一〇〇〇	〇
池田村	五六九、五八	五六九、五八	一〇〇〇	〇

町村	調定額	納期限後三日迄 收入額	調定額ニ對スル 收入歩合	收入未済額
薄根村	八三一、七三	八三一、七三	一〇〇〇	〇
古馬牧村	七三六、〇〇	七三六、〇〇	一〇〇〇	〇
水上村	六一六、七五	五九九、五七	九七二	一七、一八
桃野村	五四五、三三	五三九、五六	九八六	一五、八〇
新治村	六二二、九四	六二二、九四	一〇〇〇	〇
川田村	九一七、五〇	九一七、五〇	一〇〇〇	〇
久呂保村	八二二、八四	七八六、九四	九六八	二五、九〇
糸之瀬村	四六四、二二	四六四、二二	一〇〇〇	〇
赤城根村	四二一、一一	四二一、一一	一〇〇〇	〇
赤城根村	四三二、七五	四三二、七三	九五八	一八、〇二
赤城根村	三八二、三〇	三六六、五〇	九五八	一五、八〇
赤城根村	三八九、七一	三八九、七一	一〇〇〇	〇
赤城根村	三三二、一一	三三二、一一	一〇〇〇	〇
赤城根村	一八〇、三三	一六六、五八	九二三	一三、七五
赤城根村	一五九、五三	一四九、五二	九三二	一〇、〇一
赤城根村	八、四八二、〇八	八、〇二二、九六	九五八	四七〇、一一
赤城根村	七、五〇八、三七	七、二二一、六八	九五八	三九六、六九

大正五年度縣稅戶數割追加徵收狀況調

大正六年三月徵收期

町村名	調定額	收入濟額	收入未濟額	收入歩合
沼田町	五五三、四五	四八八、三八	六五、〇七	八八三
利南村	一八〇、一〇	一八〇、一〇	〇	一、〇〇〇
白澤村	二六〇、二五	二六〇、二五	〇	一、〇〇〇
東村	一九三、三二	一八八、九三	二、三八	九八八
片品村	二二二、八七	二二〇、四五	二、四二	九八九
川場村	一八八、一〇	一八八、一〇	〇	一、〇〇〇
池田村	一八二、九〇	一八二、九〇	〇	一、〇〇〇
薄根村	一九〇、三六	一九〇、三六	〇	一、〇〇〇
古馬牧村	一七七、六七	一七七、四九	一八	九九九
水上村	一九〇、七一	一九〇、七一	〇	一、〇〇〇
桃野村	二〇三、三〇	二〇三、〇〇	三〇	九九八
新治村	三三〇、二二	三三三、五三	六、六九	九九〇

川田村	二〇九、四七	二〇九、四七	〇	一、〇〇〇
久呂保村	一四三、一八	一四一、九三	二五	九九八
糸之瀬村	一一七、六〇	一一七、六〇	〇	一、〇〇〇
赤城根村	二二四、五〇	二二三、九八	五二	九九五
合計	三、三六五、九九	三、三六八、一八	七七、八一	九七六

◎通俗教育揭示資料 (六月分)

○晴耕雨讀

六月三日揭示

雨降れば吾れ 書讀み去りて

番茶一碗 いろ豆を噛みて

雨やめば吾れ 畑鋤き來りて

濁酒三杯 快く酔ふ

利慾權勢吾れに於いて何かあらん吾れは唯吾れの天分を盡さんのみ。青年子弟諸君ぞうか斯の心を
持つて下さり。立派な人格の人になることは疑ひありません

○世界の人口

六月十日揭示

亞細亞洲	八億五千万	亞弗利加洲	一億五千万
歐羅巴洲	四億三千万	北亞米利加洲	一億三千万
大洋洲	五千万	南亞米利加洲	五千四百万

總計十六億六千四百万となる、四捨五入によれば概數にて通常十六億五千万となる、蓋し大差なきものならん。

○主要交戦國面積人口及國富比較

六月十日揭示

面積(殖民地ヲ含ム)	人口	國富
英國	一一五八三千万	四二二〇〇万
露國	一〇〇三九	一六九〇〇
佛國	四二四七	九三〇〇
獨國	一三五一	七八〇〇
伊國	六九五	三六〇〇
埃國	二六三	五一〇〇
日本	二五九	七二〇〇

○孝字の解

六月十八日揭示

孝といふ字は老と子との字を合せたものである、老は親、子其下につきて敬ふ、上より見れば老の子をいつくしみ覆ふ形、下から見れば子か親に慎み事ふる形。

學問といふも誠に孝のため親を見捨て、何のがくもん

はいくこと返事一つて天も口も人の心もまらうなりけり

忠臣は孝子の門より出づ、親に孝は即ち君に忠なり、我國の教へは忠孝であることを忘れてはならぬ

○海外移民送金高

六月二十三日揭示

遞信省爲替時金局の調査に據れば、昨年一月以降十月末に至る海外在留本邦移民の送金高は、総額七百八万九千七百九十二圓に達し前年同期六百三十三万六千圓に比し七十五万九千五百余圓の増加にして口數に於て一万四千七百六十七口を増加せり

○大正四年末に於ける六大都市の戸數人口左の如し

六月二十三日揭示

戸數	人口
東京	五八四、七〇七
大阪	三、四九〇、〇三七
京都	九三、八六四
名古屋	九一、二五八
神戸	一一四、一六二
横濱	八九、〇〇一

○群馬縣郵便貯金狀況

六月廿八日揭示

人口 百〇四万〇二百六十三人

貯金預け人總員

二十一万一千六百三十七人

全上預金總額

二百五十五万一千九百三十八圓

人口一人當

二圓四十四錢八厘

預け人一人當

十二圓〇五錢九厘

沼田局貯金預け人總員

三千九百二十一人 (縣内郵便局九十二の中第十二位)

全上總金額

五万四千九百五十四圓 (縣内郵便局九十二の中第十位)

全上預け人一人當

十四圓十七錢

◎通俗教育揭示資料 (七月分)

○色の黒くなるわけ

七月五日揭示

理學療法の中に、日光浴といふのがある。之は光を分解した中の、紫外線といふのか効能を現すのて、色を黒くするのも、物の色をさますのも、又微菌を殺すのも皆此の紫外線の作用で、之を化學線といふ位である。色の黒くなるのを普通「日にやける」といふて居るが、是は色素かたまるのて、其の色素のたまりは第二次の皮膚を保護する爲めて、早くいへは色の黒い程皮膚の抵抗力が強いといふのてある。暑いために焦けて黒くなるのてはなく、日光中の紫外線の作用である。現に雪の多い國ては、光か雪の爲めに強い光をだして、其爲めに色か黒くなるといふことである。印度人か黒いのも、又動物の或者か背か黒くつて腹か白いのも、此邊の光線の療法よりくる自然の妙味を示すものて。色の黒くなるは、理學療法の自然的作用として大に必要の事である

○熟せぬ果物

七月十五日揭示

果物のまた熟さない間は葉と同じ様な色をして居ります、之れは他のものに見つからないやうにしてあるので、其の味の澁かつたり苦かつたり、毒てあつたりするのは、他のものに食へられないやうにしてあるのてす、から熟せぬ果物を食てはなりません

○交戦各國軍用飛行機概算

七月二十日揭示

佛蘭西	一、〇〇〇
英吉利	四〇〇
露西亞	四〇〇
伊太利	三〇〇
日本	六〇
獨逸	八〇〇
奧匈國	一〇〇

○物のはじめ

七月廿五日揭示

マツチ製造 明治八年金澤藩士たり清水誠氏はじめて造る
 金庫製造 明治二年神奈川縣八竹内彌兵衛日の丸の旗安政二年二月廿五日薩摩藩より昌平丸といふ長二十間の大船を幕府に献上する時此旗印を立て品川沖まで乗り來る之れか日の丸の旗を國旗として用ひし始めなり

オルガン製造 明治十八年静岡縣濱名郡濱松山町葉廣楠氏

蓄音機輸入 明治十九年陸奥宗光始めて佛國より齎し歸る
 電氣燈 明治十五年東京電燈會社か京橋區銀座二丁目にて点火を試む
 卷煙草 明治六年四月(百首に)鼻のさきあつくなりしに卷煙草長くもがなと思ひけるかな

○各國鐵道概観

七月廿八日揭示

國名	資本額	營業哩數
米國	三一四〇六一六三九四三圓	二四七三一二哩
英國	一二九九三二六八一五二	二三六九一
獨國	九一六〇八〇八〇八四	三七八五四
佛國	七四四〇九六〇〇四二	二五一九四
露國	七〇一七三五一八九〇	四一六二二
埃國	三四四八一五八三〇四	一四一八五
白國	一〇四一五五四一〇六	二九一三
日本	一〇〇六九二三〇八九	五六三三

(掲載數字交戰國は戰前我國は大正三年度米國は一九一五年なり)

◎通俗教育揭示資料 (八月分)

○交戰各國の兵力

八月二日揭示

歐洲各交戰國の兵力及其損傷の程度につき最近感筋の調査せる處左の如し

國名	召集總員	戰場兵員	死傷	俘虜
露國	一二六〇万	三一〇万	三三〇万	一七二万
英國	五〇〇	二四六	二五〇	三三二
伊國	三〇〇	一〇四	四〇	三
獨國	九〇〇	三三六	二七七	四二
埃國	七〇〇	一六〇	二三〇	九二

○各國郵便貯金狀況比較

八月二日揭示

國名	預入人員	預金額	人口千人當預入人員
英國	一三五一五千人	一八六八五八四千圓	二九二八

露國	八四五五	一六七九四三〇	五二
伊國	六二四一	七六三二八〇	一七四
佛國	六六〇一	六四〇九二五	一六七
白國	二六七三	三七一五七六	三五〇
日本	一三七六四	二二一八四三	二四六
米國	五六五	一四九一四五	五

○柳澤淇園の六憎

八月十日揭示

- 一、金持ちて高ふる程憎きはなく
- 二、書を見ずして、物知り顔する程憎きはなく
- 三、物奢みする程憎きはなく
- 四、人を妬む程憎きはなく
- 五、人に物を遣りて恩にさせる程にくきはなく
- 六、人前を飾る程憎きはなし

合藥の事

○岡白秀吉某旅店の壁書

八月十日揭示

- | | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| 一、正直五兩 | 一、堪忍四兩 | 一、思案三兩 | 一、分別二兩 |
| 一、用捨一兩 | | | |

右一帖つゝ毎日用ふへし、子孫延命の藥なり

禁物の事

- | | | | | |
|------|------|------|------|------|
| 一、無理 | 一、慮外 | 一、無心 | 一、虚言 | 一、油断 |
|------|------|------|------|------|

加減の事

- | |
|--------------|
| 一、物あらずひすへからず |
|--------------|

○我國に於て撃沈せられし船

八月十五日揭示

遞信省管船局調査によれば大正四年十二月、八坂丸撃沈以來一月十一日迄に於ける本邦船の獨逸潜航艇の爲めに撃沈せられたる數は九隻、三万七百〇二噸にして船名及船主左の如し

船名	船主
八坂丸	日本郵船

大越丸
小雛丸
天明丸
建國丸
靖國丸
永田丸
多喜丸
青島丸

中越汽船
村井吉兵衛
日洋汽船
南滿洲汽船
山下汽船
永田三十郎
松昌洋行
松昌洋行

○埴生の小屋

八月廿三日揭示

泥にまみれた股引脱いで 月を見ながら軒端の風呂に 汗を流して疲勞を忘れ 酒か二合に梅干三粒
 今日を終りの田の草取りに 秋の稔りも充分見えて 二百十日の暴風雨さへなくば 取れた俵の置場
 に困る 今年は豊年ぢや萬作ぢや 唄ひながら早肱枕 苦といふことの世に在りとしも 知らぬ風
 情の男貴し 笑ふこと任せよ埴生の小屋と 知るやいかに金衣玉食の人 分を守りて天を樂しむ 賤
 か男の夢圓かなるを

○天長節

八月廿八日揭示

天皇陛下の御誕辰を祝して聖壽の萬歳を祈り奉るべき日て祝日中最重いもの、一つである、光仁天皇
 の寶龜六年十月癸酉の日に群臣を召されて宴を賜はれしのか初めてあるが國民一般の祝日となつたの
 は明治元年九月二十二日以降である

今上陛下の天長節は八月三十一日暑氣の甚たしい爲め宮中の御都合によつて當日は單に御儀式のみに
 止めさせられ更に十月三十一日を以て天長節祝日と御治定相成り此の日を以て内外臣僚に醜宴を賜は
 せらるゝのである、吾々臣民たるものはこの天長節祝日を置かれたと云ふので天長節を延ばされたの
 てあると考へて當日國旗をも掲げす祝意を表することを怠れる様な必得違ひをしては相濟まぬ次第で
 ある

大正六年五月二十日 印刷
大正六年五月廿五日 發行

〔非賣品〕

發行人 利根郡長 野中富三郎

編輯人 利根郡書記 中村角治

印刷人 須田久吉

印刷所 啓文社

群馬縣利根郡沼田町五百五拾七番地

發行所

群馬縣利根郡役所